

10月30日(土)・大会1日目 13:10~14:40 (組織論レビュー【6】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【6】

「組織美学の生成と発展」

*加藤敬太 (埼玉大学大学院 人文社会科学部 准教授)

*代表報告者

[概要]

本報告は、「組織美学 (organizational aesthetics)」を取り上げます。組織美学とは、美学 (aesthetics) を基本とした新しい組織観を提供する研究群であります。ここでいう美学とは、単に「美しさ」を問うものではなく、なぜ「美しいと感じるのか」といった「感性」をテーマにした哲学の分野です。近年、欧米の組織研究の中で組織美学に関する研究が徐々に増えてきています。しかし、日本では少ないのが現状です。そこで本報告では、組織美学の生成過程を提示したうえで、今後の研究の発展の方向性を議論することを目的とします。生成過程では、組織文化研究から組織シンボリズム研究、そしてアーティファクト研究への流れの中から組織美学が登場したことが示されます。後半は、日本企業の美学を論じる意義、組織美学の課題などを議論します。

[参加者へのメッセージ]

私が組織美学に注目したきっかけは、これまで継続してきた老舗企業へのフィールド研究でした。長く存続してきた企業組織の事例分析のなかで、しばしば論理的には割り切れず、自社の価値観や文化の継承を重んじている経営の場面に遭遇しました。その後、北海道の大学に着任してからさまざまな地域企業と出会ってきたときにも同様に、地域への思いや文化を重んじる姿勢を目の当たりにしてきました。本報告は組織論レビューであり、理論的な議論に焦点があたりますが、背景としてこれまでの事例研究があることをあらかじめお伝えします。セッションの最終目標はもちろんレビュー論文を完成させることですが、今回の報告の中では具体的な事例にも少しだけ触れられたら良いなと考えています。